


線維筋痛症を患者にとっても  
医師にとっても難病にしないための書

 岡田正人 ● 聖路加国際病院アレルギー・膠原病科 (SLE, 関節リウマチ, 小児リウマチ) 部長

線維筋痛症は、広汎な疼痛が単独、もしくは本ガイドライン  
は合併症とともに存在する病状であり、我が国における罹患者は1.7%程度  
いる。線維筋痛症には、精神的負荷が疼痛の間接  
する場合も含まれるため、直接的に合併症により疼痛  
いる場合は除外される。こ  
多発筋痛症により広範な疼  
原疾患の治療により症状の角  
とから明らかである。

しかしながら、長期罹患者  
における関節破壊による非炎症性  
からの睡眠障害、身体的・精神  
で引き起こされる疼痛は、線維筋  
抜かれる。このように、線維筋痛  
特別な疾患ではなく、臨床医のす  
疾患概念を理解し、患者に対して  
適切な治療を受ける機会を提供すべ  
ある。



- 学術
- ・夏のインフルエンザ流行の原因と特徴
  - ・胆石症の診断と治療—生活習慣病と関連して
  - ・臨床カンファレンス②—急性の胸部苦悶と不眠
  - ・【グラフ】梅毒と鑑別すべき皮膚疾患

- プライマリケア・マスターコース
- ・メンタルヘルス不調者の職場復帰—復職時の対応をめぐって 対人関係で悩む場合

質疑応答

- ・C型肝炎患者の両肺間質性変化
- ・長期治療依存型ネフローゼ症候群の治療
- ・血液ガス分析のPaO<sub>2</sub>値と検体輸送時間の関連
- ・加齢に伴う癌発の病態と治療
- ・嫉妬・憎悪の感情・他人の不幸を喜ぶ理由
- ・Clostridium difficileの検査と診断
- ・インフルエンザ薬の投与
- ・国の破産の定義およびその可能性

\*\*\*\*\*  
B5判・232  
ISBN 978-4  
日本医事新報



# 週刊日本医事新報に 線維筋痛症診療 ガイドライン2013の 書評が掲載されました

週刊日本医事新報No.4652号に  
聖路加国際病院  
アレルギー・膠原病科の  
岡田正人先生が執筆された  
本学会編集の  
線維筋痛症診療ガイドライン  
2013の書評が掲載されました。

